

年間第3 3主日C

ルカ21・5-19

皆さんは信仰にとって一番重要なものは何だと思いますか。ミサでしょうか。聖書でしょうか。教皇でしょうか。教会でしょうか。司祭でしょうか。どれもみな信仰にとって大切です。私にとって、信仰において、最も重要なものは何だと思いますか。一つだけ挙げるとすれば、私が生涯を通じて常に経験する、**神の愛**です。それなしには私の**信仰は無価値で無意味**なのです。**使徒パウロが語るように「愛は決して滅びない」**（1コリント13・8）からです。

それでは、イエス様の時代、ユダヤ人にとって最も重要なものは何であったでしょうか。その当時彼らにとって最も大切なものは神殿でした。彼らはヘロデ大王の時代に50年間かけて神殿を建設しました。当時、最も美しい神殿で、装飾品に満ちていました。

しかし、今日の福音でイエスはその崩壊を予言し、こう言っていました。「あなたがたはこれらの物に見とれているが、一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る」（ルカ21・6）。ユダヤ人たちは神殿が崩壊することなど考えることもできなかつたので、驚き、イエスに尋ねました。「先生、では、そのことはいつ起こるのですか。また、そのことが起こるときには、どんな徴があるのですか。」（ルカ21・7）

ユダヤ人にとって神殿が信仰にとって最も重要なのは神の臨在と結びついてきたからです。神殿は彼らの信仰生活の中心です。もし神殿が破壊されるとしたら、それは世界の終わりを意味する、とユダヤの人々は考えていました。この予言は、歴史的には40年後に現実のものとなりました。紀元70年にローマ軍がエルサレムを攻撃し、神殿が完全に破壊されたのです。

ユダヤ人にとって、先ほど申し上げたように、神殿の破壊は世界の終わりに相当するものでした。それ以上に、信仰を失ってしまうこともありました。とくにサドカイ人のように神殿に信仰の基盤も置いていた人々は、信仰を失ってしまったのです。

イエス様は私たちに今の時代について警告しておられます。イエスの語られたことで最も重要なことの一つは、「神の国が近づいていると悟りな

さい」(ルカ21。31)ということです。このことは私たちの美しい都市、道路網、自動車、家、衣服など、人間が作ったものは何一つ永遠に続かないということです。人間でさえも、いつかは滅び、消えてしまうのです。しかし、イエスは私たちが苦しみと迫害の中で耐え忍ぶことによって、キリストの前に命を勝ち取ることができると励ましています。(ルカ21。19)

さらに34節以下を読みますとイエスは、この世のものに執着して神を忘れてはならない、いつでも神の前に立つことができるように目を覚まして祈りなさいと警告しています。

最後の「目を覚まして祈る」信仰は、神から与えられるものです。信仰は、神を愛する者が人生の困難に打ち勝つために、神が与えてくださる贈り物です。使徒パウロは、「神の栄光の力に従い、あらゆる力によって強められ、どんなことも根気強く耐え忍ぶように」(コロサイ1、11)と語っています。神に信仰を与えられ、神の愛を知ることによって、私たちは大きな忍耐と耐性を持つようになります。

今の世の中はイエス・キリストを信じる私たちにとってとても厳しい状況かもしれません。私たちの社会にも、家庭にも、教会にも**信仰を持ち続ける**困難があるかもしれません。しかし、イエスは今日の福音書の中で、「忍耐によって、あなたがたは命を勝ち取りなさい」(ルカ21・19)いや、勝ち取ることができるのだ、と断言されています。

今日、私たちは、信仰を与えられ、**滅びることのない**神の愛を知ることによって、日々の生活の中で耐え忍ぶことができるように祈りましょう。神に、私たちが人生の旅路の中で喜んで生きる強い信仰を与えてくださいと祈りましょう。

Lazun Naw san Vincent (pime)